

# 冊

六年 筆順： オン サツ・サク 図数： 5

成り立ち



紙がまだ発明されなかつた昔は、竹を長細く割つたものをうすくけずり、これに字を書きました。これを「竹簡（年853）」と言います。昔の「書物」は、この竹簡を革ひもでつなぎ合わせて、「卷物」にしました。

冊は、「竹簡を革ひもでつなぎ合わせた形」を表した字で、「書物」のことを表した字です。例書冊、冊子、分冊、大冊、別冊。

「竹簡のよう細長い紙」のことを表します。例短冊。また、本を数える時に使います。例一冊、二冊。

「冊の漢音はサクで、サツは慣用音である。なお、吳音はシャク」

# 蚕

六年 筆順： オン サン クン かいこ  
図数： 10  
成り立ち

天虫

天虫

蚕

“天”という字と、“虫”という字とを組み合わせて作った字です。

昔、大そう貴重な物とされた絹糸を作り出す虫なので「天から授けられた虫」という意味で作った字です。

“かいこ”を表した字です。

“かいこ”とは、“飼い子”という意味の言葉です。“飼

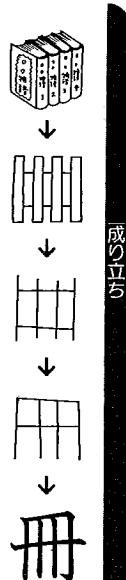
う”とは、「人が動物に食べ物をやつて育てる」ことです。蚕の食べ物である“桑”的葉を探つて来て、温度や湿度にも注意して大事に育てました。だから、“飼い子”と言つたのです。色が白いので「お白さま」とも言います。

## 使い方

▽ぼくは雑誌を取っています。本誌も面白いですが、別冊の付録が楽しみです。

▽七夕の日に妹と一緒に竹を切つて来て、短冊を飾りました。短冊にはそれぞれの願い事を書きました。お星さまも作つて飾りました。久しぶりの晴れた空に星が見えて、願い事がかなうような気がしました。

## 成り立ち



▽書冊（書物。本のこと。）

▽冊子（書物）

▽大冊（大きな本。厚い本。「わたしは『戦争と平和』という大冊を読み上げました」などというふうに、つかわれた本）

▽別冊（雑誌や全集などで、付録などとして別に一冊として編集した本）

▽短冊（細長く切つて、字を書いたり、何かに結びつけたりする紙。また、とくに、和歌や俳句を書く、細長い厚紙をさします。）

▽おばあちゃんが子供のころは、いなかでは、ほとんど家の家で蚕を飼っていたそうです。朝起きると、蚕の食べる桑の葉を摘みに行き、それから学校へ行つたそうです。一番忙しくなる頃の一週間は、養蚕休業と言つて学校が一斉にお休みになり、朝から晩まで仕事をしたそうです。

## 使い方

▽養蚕（蚕を養い育てること。絹糸を取るために蚕を飼うことです。繭が作られるまでの一週間は、蚕が桑を食べる量も多くなり、大変忙しく、小学生でも働かなければ間に合わず、学校は休業しました。）

▽蚕種（蚕の卵のこと。）  
▽蚕室（蚕を飼うへやのこと。）  
▽蚕卵（蚕の卵に卵を生みつけさせた紙。蚕卵紙）  
▽蚕糸（蚕の作った繭から取れた糸のこと。絹糸のことです。）

## 熟語例

▽蚕食（蚕が桑の葉を食べるよう、他人の財産や領地を、はしから次々に奪つて行き、すつかり奪い尽くすことを言います。）